

—つなぐ、広がる、時代を超えて— 北上川舟運と海

令和元年

9.21 [土] ~ 12.8 [日]

会場：北上市立博物館本館

【開館時間】 午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分)

【休館日】 12.2 [月]

【観覧料】 一般 500円、高校生 240円、小中学生 170円(団体割引有)

海の学びミュージアムサポート
Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

北上市立博物館
Kitakami City Museum

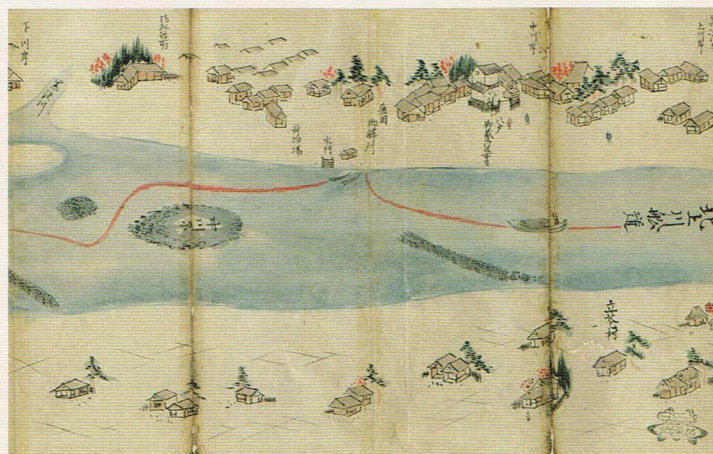
〒024-0043 岩手県北上市立花 14-59
電話 0197-64-1756 FAX 0197-64-1860
Eメールアドレス museum@city.kitakami.iwate.jp



リサイクル適性®
この印刷物は、紙へ
リサイクルできます。

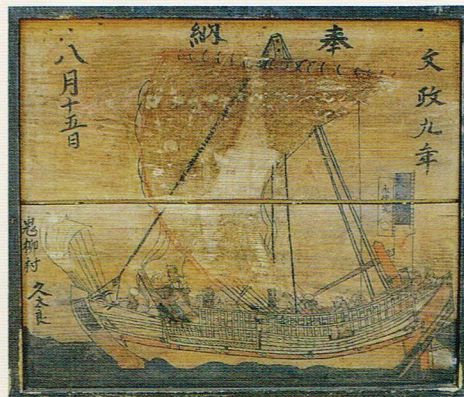
—つなぐ、広がる、時代を超えて—
北上川舟運と海

東北一の大河・北上川は、江戸時代から明治時代の半ばにかけて、米を主とする物資輸送の大動脈でした。本展では、北上市及び県内流域を中心に、それぞれの特徴や流域間のつながり、各地に広がっていくモノの動きなどに注目して、北上川舟運と海の歴史を紹介します。



北上川舟道図(一部分) 天保元~3年(1830~1832) 一関市博物館所蔵

写真は、小型船(小線船)と大型船(艀船)の中継港として発展した黒沢尻河岸(現北上市)が描かれた部分。この舟道図には黒沢尻から石巻までの航路が描かれているほか、志和稻荷や郡山御蔵(現紫波町)も描かれている。



船絵馬(鬼柳)
 文政9年(1826)
 鬼柳八幡神社所蔵

盛岡藩の船頭が地元の神社に奉納したものであるが、江戸・大坂間を定期的に航行した菱垣廻船が描かれており、江戸時代の水運発達の様相をうかがい知ることができる。



艀船・天神丸(復元)
 佐々木亨二氏撮影

長く盛岡藩の年貢米輸送を担ってきた黒沢尻の歴史を受け継ぎ、地元の有志により昭和62年(1987)に復元された艀船。今回の展示ではこの部材を利用して、実物の断面模型を展示している。

関連事業

※各事業とも参加無料ですが申込が必要です。
 (北上市立博物館 TEL 0197-64-1756)

● **講座**

「雑書」にみる盛岡藩の自然環境とその利用
 —海の恵み、川辺のにぎわい—

講師／兼平賢治氏(東海大学文学部准教授/北上市史近世部会長)

日時／10月13日(日) 午後1時30分～

場所／北上市立博物館本館

内容／江戸時代における盛岡藩の自然環境をふまえ、新興商人を多く輩出した沿岸部の様相や、くらしと深く結びついていた当時の河川利用について考察します。

● **フォーラム**

「北上川舟運を語る」

パネラー／熊谷 博史氏(もりおか歴史文化館学芸員)
 岩館 岳氏(紫波町教育委員会生涯学習課主任)
 小田桐睦弥氏(花巻市博物館学芸員)
 野坂 晃平氏(えさし郷土文化館課長補佐)
 相馬美貴子氏(一関市博物館副館長)

コーディネーター／
 渋谷 洋祐(北上市立博物館館長補佐)

日時／10月19日(土) 午後2時～

場所／北上市立博物館本館

内容／岩手県内の北上川流域における教育施設等で活躍する学芸職員が集まり、様々な視点から北上川舟運の様相を語り、探っていきます。

北上市立博物館
 Kitakami City Museum

〒024-0043 岩手県北上市立花 14-59
 電話 0197-64-1756 FAX 0197-64-1860
 Eメールアドレス museum@city.kitakami.iwate.jp

● **利用案内**

開館時間 午前9時～午後5時(最終入館/午後4時30分)
 展覧会期中休館日 12月2日(月)

休館日 1. 12月から翌年3月までの
 (1) 月曜日(国民の祝日の場合はその翌日)
 (2) 国民の祝日の翌日(土・日及び(1)の休館日の場合はその翌日)
 2. 12月28日から1月4日

● **観覧料**

区分	個人	団体	共通観覧券
一般	500円	400円	700円
高校生	240円	180円	300円
小中学生	170円	120円	200円

*未就学児は無料。
 *団体は20名以上。
 *共通観覧券は博物館のほか、北上市立鬼の館、北上市立利根山光人記念美術館でご利用いただけます。各施設1回ずつ観覧でき、有効期限は発行日より1年間です。

● **アクセス**

JR北上駅からタクシーで約10分
 東北自動車道北上江釣子ICから車で約15分

